様式Ｃ-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成　２１　年　６　月　９　日現在

研究種目：基盤研究（B）
研究期間：2006～2008
課題番号：18330026
研究課題名（和文）　議会制民主主義における立法・行政関係の歴史的・比較政治学的研究

研究課題名（英文）　Historical and Comparative Analyses of Legislative-Executive Relationships in Parliamentary Democracies

研究代表者
増山　幹高（MASUYAMA MIKITAKA）
慶應義塾大学・法学部・教授
研究者番号：50317616

研究成果の概要：

この研究では，日本を含む議会制民主主義諸国における立法と行政のあり方を体系的に理解し，歴史的・比較政治学的視座に基づいて日本の国会および議院内閣制を理論的・実証的に分析している．とくに，国会に関する未公開史料の保存・整理を進めるとともに，代議制民主主義の発展過程，二院制と立法・行政関係の制度構造，議会制度と選挙制度の相互連関を歴史的・比較政治学的に検証している．

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2006 年度	5,900,000	1,770,000	7,670,000
2007 年度	4,800,000	1,440,000	6,240,000
2008 年度	3,900,000	1,170,000	5,070,000
年度			
年度			
総　計	14,600,000	4,380,000	18,980,000

研究分野：社会科学
科研費の分科・細目：政治学・政治学
キーワード：政治学，議会，民主主義，歴史分析，比較分析

１．研究開始当初の背景

国会研究は理論・実証の両面において格段の進歩を遂げてきているが，海外における議会研究を視野に入れると，演繹的な理論構築の厳密さ，実証的な事例分析・計量分析の体系性という意味において端緒についたばかりと言わざるを得ない．この共同研究においては，議会制民主主義研究を時系列，国際比較の両面で発展させることを目指した．

２．研究の目的

この研究の第一の目的は代議制民主主義を

新制度論的アプローチから分析することにある．新制度論において，議院内閣制は内閣と議会の抑制・均衡だけでなく，制度内のアクター間の関係，つまり，内閣を与党の代理人と捉え，国会を与野党が競争・協調する制度と捉えられる．

新制度論の視点から法学的な制度論とは異なる議院内閣制の動態に焦点をあてるとともに，この研究では，第二の目的として，演繹的理論，計量分析，事例研究，歴史研究の専門家が参加することによって，代議制民主主義における立法・行政関係をミクロ・レベルにおいて歴史的・比較政治学的に検証する．

第三の目的は，海外の著名な議会研究者に研究協力者として参画を求め，日本の国会および議院内閣制を基準とすることで，時間的，空間的な広がりを備えた比較政治制度論を展開することにある．これにより，日本政治を世界の政治学研究の主要な研究対象として確立することが期待される．

３．研究の方法

(1) 理論構築の参照枠組みとして，世界の議会研究で浸透しつつある新制度論的アプローチとその空間理論に基づくモデリング手法を採用する．

(2) 日本を含む世界の議会制民主主義諸国を対象として，日本の国会を基準として，諸政治制度に関するマクロ・データを調査・分析する．

(3) 日本を中心として，主要国との比較を念頭において，立法や選挙などのミクロ・データを調査・分析する．

(4) 国会について，衆参両院事務局の協力のもと，未整理のままの保存史料を体系的に把握し，整備・公開する．

(5) 海外の研究協力者に共同研究への参画を求め，代議制民主主義の比較分析を行うとともに，国際会議を活用し，情報収集・意見交換を図る．

４．研究成果

(1) 史料整備

国会に関する保存史料は未整備なものが少なからずある．この研究では，とくに衆議院警務部所蔵史料について，その目録化や内容把握を進めている．また，憲政記念館所蔵の衆議院秘書課旧蔵史料，衆議院警務部旧蔵史料を調査し，その目録化，電子データ化，内容把握を進めている．さらに，衆議院議事部所蔵史料，参議院文書課所蔵史料など，従来内部資料として所蔵されてきた膨大な史料群についても，衆参両院事務局の協力を得ることによって概要把握が可能となり，これらの史料を継続して調査･研究するために，新たな共同研究を立ち上げている（「衆議院事務局の未公開史料群に基づく議会法制・議会先例と議院事務局機能の研究」基盤研究 A，2009～12 年度，研究代表：大石眞）．

(2) 実務家との交流

上記（1）の史料整備など，国会事務局における未公開情報の調査・分析・公開を進めるにあたって，国会に関わる実務家と研究者が学術的な連携を図っていくことは重要である．この研究では，とくに国会事務局関係者との月例研究会を開催し，保存史料の概要把握，史料整備・目録化などの進捗状況について意見交換するとともに，現在の衆参ねじれ状況における国会情勢について情報を収集し，議論を交わしてきている．

(3) 海外の議会研究者との交流

この研究が強調する視点の一つが比較政治学的な視座であり，そうした視点から各国の議会や国会に関する理論的・実証的分析を

進めてきている．海外の議会研究者との学術交流として，この研究では，2006 年 7 月に福岡で開催された世界政治世界大会において「比較議会」分科会を企画し，米国カリフォルニア大学サンディエゴ校の Gary Cox, Mathew McCubbins，コロンビア大学の David Epstein，Sharyn O'Halloran といった著名な研究者を招聘し，研究報告や意見交換する機会を持つとともに，研究代表者の増山と分担者の川人は"Time Constraint and Agenda Control in the Japanese Diet"と題する論文を報告している．また，2008 年 5 月に日本大学で開催された日本選挙学会においては，「東アジアの選挙」分科会を企画し，韓国中央大学の Byoung Kwon Sohn を招いている．

(4) 政治家・メディア関係者との交流

代議制民主主義のあり方を理解するには，現在の日本において定着しつつある政権選択選挙の動向にも注意を払う必要がある．この研究では，そうした観点から，2008 年 5 月に日本大学で開催された日本選挙学会において，石原伸晃（衆議院議員・自民党），福山哲郎（衆議院議員・民主党），古川康（佐賀県知事），清水真人（日本経済新聞経済解説部編集委員）をパネリストとして招き，「マニフェスト型選挙の行方」と題するシンポジウムを開催している．

(5) 研究者間の交流

この研究では，とくに歴史と比較という二つのアプローチの融合を目指してきている．とくに 2007 年 6 月の日本比較政治学会においては，代議制民主主義が確立する歴史的過程における公選勢力と世襲勢力の相克を比較政治史的に検証する「君主制と政党政治：比較政治史的検証」と題する分科会を企画し，研究分担者の村井が「元老西園寺公望と日本政党政治」と題する報告を行っている．また二院制についても歴史的，比較政治学的考察を進め，研究分担者の竹中は 2007 年 5 月の日本選挙学会において「参議院『封じ込め』」と題する論文を報告し，代表者の増山は 2007 年 6 月の日本公共政策学会において「二院制と行政権」と題する 論文を報告している．

(6) 公刊物

上記の学会報告の多くが以下５の主要な雑誌論文に挙げるように公刊されている．図書としては，研究分担者の待鳥が『比較政治制度論』を出版し，民主主義の政治制度が相互にどのように連関し，また政策選択をどのように規定しているのかについて検討を進め，A．レイプハルトや M．シュガートの政治制度論を修正し，比較政治学的により広い射程を提示している．待鳥は，そうした比較政治学的な枠組みによって，戦後日本の地方自治体の政治制度と政策選択の関係を計量分析と事例分析から解明した『日本の地方政治』も出版している．また，分担者の飯尾は『日本の統治構造』ならびに『政局から政策へ』を出版し，戦後日本の政治体制の特徴を政府・与党二元体制と省庁割拠制と捉え，議院内閣制の憲法構造において，どのように権力分散的な統治構造が定着してきたのかを明らかにしている．

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 43 件）

① 増山幹高，日本における二院制の意義と機能，慶應の政治学：日本政治，267-284 頁，2008 年，査読無

② 川人貞史，衆参ねじれ国会における立法的帰結，法学，72-4 巻，1-32 頁，2008

年，査読無

③ 村井良太，元老西園寺公望と日本政党政治－その意思と権力，日本比較政治学会年報，10 巻，101-123 頁，2008 年，査読有

④ 竹中治堅，首相と参議院の独自性：参議院封じ込め，選挙研究，23 巻，5-19 頁，2008 年，査読有

⑤ 増山幹高，議会研究：権力の集中と分散，レヴァイアサン，40 巻，212-223 頁，2007 年，査読無

⑥ 飯尾潤，小泉内閣における官僚制の動揺，年報行政研究：行政改革と政官関係，42 巻，80-99 頁，2007 年，査読無

〔学会発表〕（計 8 件）

① 村井良太，元老西園寺公望と日本政党政治，日本比較政治学会，2007 年 6 月 23-24 日，同志社大学

② 増山幹高，二院制と行政権，日本公共政策学会，2007 年 6 月 9-10 日，東北大学

③ 竹中治堅，参議院『封じ込め』-日本政治における首相と参議院の関係，日本選挙学会，2007 年 5 月 19-20 日，神戸大学

④ Kawato, Sadafumi and Mikitaka Masuyama, Time Constraint and Agenda Control in the Japanese Diet, International Political Science Association, July 9 - 13, 2006, Fukuoka, Japan.

〔図書〕（計 6 件）

① 待鳥聡史，有斐閣，比較政治制度論，2008 年，340 頁

② 飯尾潤，ＮＴＴ出版，政局から政策へ：日本政治の成熟と転換，2008 年，290 頁

③ 曽我謙悟・待鳥聡史，名古屋大学出版会，日本の地方政治：二元代表制政府の政策選択，2007 年，379 頁

④ 飯尾潤，中央公論新社，日本の統治構造：官僚内閣制から議院内閣制へ，2007 年，248 頁

〔その他〕

研究内容又は研究成果に関する web ページ

http://www.law.keio.ac.jp/~masuyama/research.htm

６．研究組織

(1) 研究代表者

増山　幹高（MASUYAMA MIKITAKA）

慶應義塾大学・法学部・教授

研究者番号：50317616

(2) 研究分担者

坂本　孝治郎（SAKAMOTO KOJIRO）

学習院大学・法学部・教授

研究者番号：50137890

待鳥　聡史（MACHIDORI SATOSHI）

京都大学・法学研究科・教授

研究者番号：40283709

奈良岡　聰智（NARAOKA SOCHI）

京都大学・法学研究科・准教授

研究者番号：90378505

村井　良太（MURAI RYOTA）

駒澤大学・法学部・准教授

研究者番号：70365534

飯尾　潤（IIO JUN）

政策研究大学院大学・政策研究科・教授

研究者番号：90241926

竹中　治堅（TAKENAKA HARUKATA）

政策研究大学院大学・政策研究科・准教授

研究者番号：70313484

川人　貞史（KAWATO SADAFUMI）

東北大学・法学研究科・教授

研究者番号：10133688

(3) 連携研究者